

平成 18 年 10 月 2 日
日本銀行盛岡事務所

岩 手 県 金 融 経 済 概 況

1. 概 況

県内経済は、緩やかな回復を続けている。

最終需要の動向をみると、個人消費は一進一退の動きとなっているが、設備投資が大幅に増加しているほか、住宅投資も前年を上回って推移している。

一方、生産動向は、IT・自動車関連分野を中心に増加傾向が続いており、雇用情勢も改善傾向にある。

2. 最終需要

(1) 個人消費

個人消費は、全体としては一進一退の状況が続いている。

(大型小売店売上高)

百貨店の売上げは、お盆以降も気温の高い日が続き、秋物商戦の出足が鈍かったこともあり、全体として盛り上がりには欠ける展開となっている。一方、スーパーの売上げは、気温が高目に推移したため夏物商材に動きがみられ、ほぼ前年並みの動きとなっている。

(家電量販店売上高)

家電売上高は、パソコンやDVD等が新機種投入前の買い控えなどから伸び悩んでいるが、薄型テレビなどのデジタル家電の販売が好調に推移しており、全体としては底堅い動きを示している。

(乗用車新車登録台数)

乗用車新車登録台数（軽自動車を含む）は、軽自動車が新型車投入効果から引き続き前年を上回って推移しているが、小型車・普通車の減少が続いていることから、全体では前年割れの状況となっている。

(2) 住宅投資

新設住宅着工戸数は、分譲マンションの増加に支えられ、前年を上回って推移している。

(3) 公共投資

公共工事請負金額は、予算規模の縮小を背景に減少傾向にある。

(4) 設備投資

9月短観における県内企業の2006年度設備投資計画を見ると、製造業、非製造業とも前年度を大幅に上回る計画となっている。

3. 生産動向

生産面では、IT関連分野での増産や自動車関連分野での高操業を主因に、全体として増加傾向が続いている。

(電気機械)

電子部品・半導体では、海外の携帯電話や薄型テレビ向けを中心に生産が増加している。また、情報通信機械では、移動局通信装置の生産が堅調に推移している。

(輸送用機械)

自動車部品では、内外の需要が好調なため、フル生産を続けている。完成車については、海外向け車種を中心に高操業を続けている。

(設備関連)

工作機械では、海外の自動車関連向けを中心に、フル操業を続けている。

(その他)

鉄鋼(線材)は、自動車向けを中心に操業度を高めている。

セメントやコンクリート二次製品など建設関連品目では、マンション関連の受注が増加しているが、公共投資が減少基調にあることから、全体としては生産能力を下回る生産が続いている。

紙・パ(段ボール原紙)は、食料品向けの需要好調などから、高水準の生産が続いている。

4. 雇用・所得の動向

雇用情勢をみると、有効求人倍率は、製造業での生産回復を背景とした求人増加を主因に、上昇基調にある。

一方、雇用者所得は、特別給与(主として夏季賞与)が増加したこともあり、前年比マイナス幅が縮小している。

5. 企業倒産

企業倒産(負債総額10百万円以上)をみると、1件当りの負債額は小口化しているが、件数ベースでは7月以降3ヶ月連続して2桁台となった。

6. 金融面の動向

預金動向をみると、個人預金が堅調に推移しているほか、法人預金も下げ止まりつつあることから、前年をやや上回って推移している。

一方、貸出動向をみると、法人向けは、なお弱めの動きとなっているが、個人向けが住宅ローンを中心に堅調なほか、地公体向けも財政事情を反映して増加傾向にあることから、全体では前年を上回って推移している。

以 上